

ゴロゴロ塚

…路傍の石造物…

商工会館のすぐ横に
通称「ゴロゴロさん」と
呼ばれる石碑が祀ら
れています。

元は、現在地より約
10 数メートル北寄りの位置で、諸輪から一本木を経て傍示本へ通
ずる道路沿いにあった高さ2メートルほどの塚の上にありました。

焙烙(ホウロク)売りが通ると必ず一枚焙烙を供えて行ったといわ
れていますが、土地改良ほ場整備事業などにより塚が整地された
ため、石碑は現在地に移され小堂宇の中に安置されています。



正面刻文の拓本

- [通 称] 「ゴロゴロさん」 高さ:80cm 幅:33cm
- [形 状] 板碑石塔
- [所在地] 春木字石塔(商工会館のすぐ東隣)
- [刻 文] 正面 「南無阿弥陀仏」
- [建立年] 不詳(口伝:明治 38 年)
- [伝 承] 五郎と称する修験者を吊った墓と伝えられています。
足腰の病に良いとも伝わっています。
- [調 査] 第2次文化財基礎調査(昭和55年7月)
- [参考資料] 東郷の郷土資料Ⅱ(22 頁)、文化財物語(267 頁)



位置周辺図(昭和56年頃)



位置周辺図(現在)

五輪堂

諸輪の地内には、
大小さまざまな五輪
塔が、昔から松の根
元などに建っていま
した。



これらの五輪塔が、いつの頃からか観音畑の地に集積され、「五輪様」と称し祀られてきました。
形状的には、室町後期から江戸初期に西日本で多く作られたとされる小型の「一石五輪塔」を多数確
認できることから、織豊期(戦国時代)前後に諸輪上城(北城)・同中城など、当地域を治めていた丹羽
氏に関連した人々を弔ったものではないかと考えられています。

[通 称] 「五輪さん」

[所在地] 諸輪字観音畑(観音寺から東側の旧道を100メートルほど北上したところにある用水路に
沿って斜め左に向かう道を入ってすぐのところ)

[内 容] 五輪塔の完形品や部分、宝篋印塔の部分など総計117点が納められている。宝篋印塔
は、相輪部分20点、突起部分10点。五輪塔の完形品(一石五輪塔)は、16点。

[第2次文化財基礎調査(昭和55年7月)で確認]

[設置年] 当初の堂設置は明治期。その後、昭和32年と平成19年に堂再建。

[参考資料] 東郷の郷土資料Ⅰ(10頁)、東郷の郷土資料Ⅲ(10頁)、東郷の石像の伝承(14頁)
文化財物語(262頁)、諸輪の歴史(229頁)、もろわの口碑伝説(4頁)



位置周辺図(昭和56年頃)



位置周辺図(現在)

和合書院 (塾)跡

東郷の歴史シリーズ 6

…路傍の石造物…



和合の知々釜池(現知々釜池運動場)の畔には、明治初期に旧尾張藩士の子弟等を塾生としていた書院(塾)がありました。

その頃、全国的に禄を失った士族達の生活困窮と新政府への不満の爆発の恐れがあったようです。

青少年らが十分に分別もつかないまま反政府の徒につくことのないように、海部昂蔵氏が、徳川慶勝の意を受け青少年を預かり、学問と教養に励ませたようです。生徒たちは、勉強するばかりではなく、自分たちの食料生産のために田んぼに出て稲を作ったり、畑を耕して野菜を作ることが大切な日課だったようです。

町では、和合書院が開設されていたことを後世に残し伝えるため、「和合塾跡」の石標を旧和合保育園敷地内に設けました。

〔歴 史〕 海部昂蔵氏によって明治9年、「和合書院」が和合村に創設(和合村は海部久右衛門の知行地)。同14年海部氏の北海道転任により閉鎖。

〔所在地〕 和合字知々釜123(知々釜池北側の畔)

〔石標設置位置〕 旧和合保育園敷地内

〔設置年〕 昭和55年度(1980)

〔設置経緯〕 史跡伝承地を永く後世に残し伝えるため、町制10周年記念として設置されました。

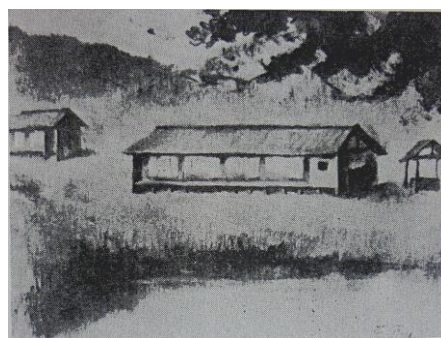
〔調 査〕 第2次文化財基礎調査(昭和55年7月)

〔参考資料〕 東郷教育70年誌(7頁)

東郷町誌第1巻(155頁)

和合誌(589頁)、和合会史(56頁)

実説名古屋城青松葉事件(209頁)



出典:実説名古屋城青松葉事件(口絵写真)



位置周辺図(昭和60年頃)



位置周辺図(現在)

H24.10.29 作成、R6.12.20 修正

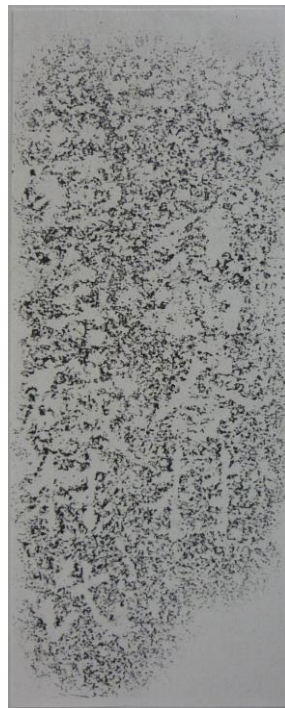
一本木の 道標

東郷の歴史シリーズ 7

…路傍の石造物…

諸輪と傍示本の境、現在の北山交差点付近に松の木があって一本木と呼ばれていました。

その傍らに「なごや」と「なるみ」を案内する道標がありました。



拓本(背面)



拓本(右面)

〔旧所在地〕 春木字北野淵

〔現所在〕 東郷町郷土資料館(いこまい館内)

〔建立年〕 不詳

〔刻文〕 正面「丹岳 浄心居士」

「慈泉 法雲(?)信女」

背面「和合村 ○○磯村氏」

右面「右 なごや道」

左面「左 なるみ道」

〔経緯〕 春木字北野淵と諸輪字北山を分ける東西に延びる旧道上(現在の北山交差点より1本北側の小道と1本東側の南北に延びる小道の交差する位置)に松があって、これを「一本木」と呼んでいました。

旧道の途中での分かれ道は、この一本木のところだけであり、道標に記されている内容から、この道標の置かれていた当初の場所は、この「一本木」の分かれ道の所と考えられます。

〔参考資料〕 東郷の郷土資料Ⅱ(22頁)



位置周辺図(昭和56年頃)



位置周辺図(現在)

H24.10.29

祐福寺一里塚

東郷の歴史シリーズ 8

…路傍の石造物…

名古屋と岡崎とを結ぶ街道に設けられた
里程標の一つ。

〔所在地〕 春木字新池 150-1 (北側)

春木字小坂 10 (南側)

〔指定〕 昭和43年3月11日

愛知県史跡に指定

〔形状・規模〕 県道名古屋岡崎線の道路
を挟んで両側にあります。



北側の塚: 道路肩から5.6メートル離れて位置し、長径(東西)8.7メートル、短径(南北)7.3メートルの楕円に近い形。水田面より1.6から2メートルの高さで、塚上には松の木が植えられていました。(「県史跡」指定時の状況)

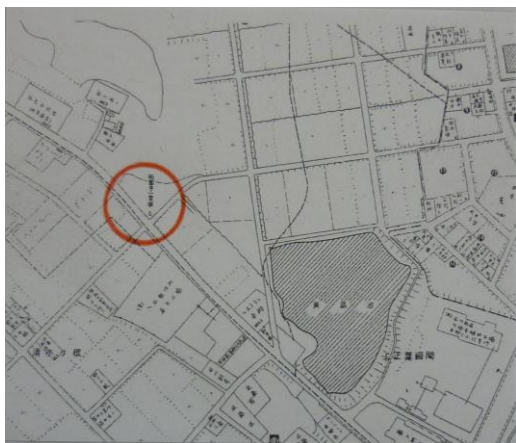
南側の塚: 道路肩から約7.1メートルの距離にあり、長径(南北)約9メートル、短径(東西)約8.3メートルの円に近い楕円形。ほぼ1.2メートルの高さを持ち、塚上に樹木なし。(「県史跡」指定時の状況)

〔石碑及び石垣の設置〕 昭和45年9月、塚の崩壊防止と原型保存のため南側の塚に石垣を施すとともに北側の塚の前に史跡碑を建設。

〔歴史〕 この街道は、慶長17年(1612)名古屋城築城とともに、徳川家康によって名古屋岡崎の近路として開かれました。街道には、平針に伝馬が置かれ松並木が植えられ、一里塚も築かれました。

それらの殆んどは消滅しましたが、祐福寺一里塚のみが双が塚をなして原型に近い状態を保ち残存し、徳川期の交通上の遺産となっています。昭和42年、愛知用水土地改良区の「ほ場整備事業」実施の際、当事者らの好意により保存されることとなりました。

〔参考資料〕 東郷町誌第2巻(859頁)、文化財物語(276頁)、愛知県史別編「建造物・史跡」(418頁)



位置周辺図(昭和56年頃)



位置周辺図(現在)

H24.10.29

又池の庚申像

…路傍の石造物…

部田地区には、旧集落から見て鬼門の方向2箇所「庚申像」が祀られています。

一箇所は、県道名古屋岡崎線沿い境川の手前（西側）でコンクリート製の祠に祀られている「庚申池の庚申さん」。

もう一箇所が、集落の南端、豊明市との境にある又池の用地でコンクリート製の祠に祀られている「又池の庚申さん」。

〔所在地〕 春木字南切山

〔形状・規模〕 六臂の青面金剛像が邪鬼の上に立つ。

台座には三猿（左から「言わざる・聞かざる・見ざる」）が浮き彫りされています。本体の像高約80cm。



〔歴史〕 供花・祭祀等の世話役は、近隣住民が交代でしています。年代を特定する刻文等は、確認されていませんが、下表「庚申等の時期的変化」から江戸中期頃の作と推定されます。

「庚申池の庚申像」は、第1次文化財調査（昭和53年3月）において肉眼で「寛延元年」（1748）の刻文が確認されており、村の鬼門への設置という経緯を考慮すれば、同時期の設置と考えられることから「又池の庚申像」も江戸中期頃の作であると考えられます。

〔庚申塔の時期的変化〕（「図説歴史散歩事典」より）

江戸前期 … 結衆の名、舟型、猿だけが刻まれたものが多い。

江戸中期 … 青面金剛が刻まれる。豪華で飾りがにぎやかになる。元禄前後から享保頃の造立。

江戸後期 角型・自然石型が増加。簡略化され文字だけのものが多くなる。

〔参考資料〕 東郷町誌第1巻（295頁）、文化財物語（281頁）、東郷の郷土資料Ⅰ（15・16頁）、もっこく8号（108頁）、もっこく9号（105頁）、東郷の石像の伝承（19頁）



位置周辺図（昭和56年頃）



位置周辺図（現在）

H24.10.29